



ものづくり広報

「今でしょ！」～底力の発揮～

鈴鹿市ものづくり産業支援センターが行った、市内中小企業6月・8月号の景況感調査では、「逆境で心が折れそうなときこそチャンス」「経営者の腕の見せどころ」と、ピンチをチャンスにと捉え、気持ちを切り替えて苦境を乗り越えようとする経営者の姿が明らかとなりました。



そこでご紹介した企業に共通することは、

- 己の信念を貫き、独自の嗅覚で情報をキャッチし、自社の成長戦略に取り込む。
 - 市場の変化を先取りし、積極的に業容拡大を図ろうとするチャレンジ精神と行動力を持つ。
- こうした積極的な姿勢です。

～夢実現は、みんなで見てこそ叶う～

自社を取り巻く環境の変化に対応し、苦境打開の手を打ち乗り切ってきた現場では早くも今年の事業計画が後半戦を迎えました。

現場は日常業務をこなすことで手一杯。現場のどこに問題があるのか分からない・・・
どんな職場にも課題は必ずあるはずです。

禅の言葉に「啐啄同時（そったくどうじ）」という用語があります。

ひな鳥が卵の殻を破り生まれ出ようとするとき、卵の殻を内側からつつくの「啐（そつ）」といい、同時に親鳥が外側から殻をつつくの「啄（たく）」といいます。従業員を「ひな鳥」、経営者を「親鳥」に例えるならば、経営者は職場改善に努力する従業員をタイミングよくサポートし、気持ちよく仕事ができる環境づくりをする必要があります。

職場改善のポイントとして、あるべき姿を明確に描いて「問題は何か?」「どこを改善したら良いのか?」「どんな改善をしたら良いのか?」「いつまでに何をするのか?」、あきらめずに改善が完了するまで取り組み続けましょう。

ものづくりは人づくり、8月号でも触れましたが、現状脱皮のキーワードは「人」です。「自分で考える人づくり」「問題解決力を持った人材育成」自分たちの職場は自分たちの力で変えるという決意を持つことが重要ではないでしょうか。自分たちで改善し、「やればできる」という自信を持つことが、職場改善のさらなる原動力になると考えています。



企業が元気になる新企画を開催

○マネジメント研修

市内中小企業の管理職を対象に、期待されるマネージャー像について、自社の課題に応じた選択科目を交えながら実施します。 ※今年度は試行運用とし、来年度から本格運用の予定です。

と き 平成25年11月21日(木)～23日(土)

○ものづくり企業交流会

新たな企業間交流の場づくりをめざし、企業の強みや魅力を紹介する展示コーナー、手作りのミニカーで走行力を競う「すずか技能オリンピック(仮称)」、アイデア社長の生の声をお届けする勉強会など、多彩な内容で開催します。

と き 平成26年2月16日(日) ところ 鈴鹿市民会館

若社長紹介

鈴鹿工機株式会社 代表取締役 澤田 尚紀 38歳

三代目社長として3年、入社して12年。他社での3年間の体験も含めて、次期社長として自覚し鍛錬を積んできたが、「一切任せる」と先代から引き継ぎ社長となり、その責任の重さをひしひしと感じている。

○基本理念：堅実

○運営方針：

- 1・オープンな経営
- 2・技術力の向上と継承
- 3・チャレンジ精神で創意工夫に努める
- 4・コミュニケーションを大切に明るい職場を築く
- 5・社会から喜ばれて存在を求められる企業

市役所1階ものづくり産業展示コーナーでの自社展示の様子



製造設備事業・機械工作事業
住所 鈴鹿市神戸本多町684
TEL 059-382-0146
FAX 059-382-1479
Eメール
c-koki@etude.ocn.ne.jp

社長としての経営方針を打ち出し全従業員へオープンな経営を実践している。製造設備事業、機械工作事業に次ぐ第3の柱となる事業の開拓に情熱を注いでいると、明るく話していただいた。

◆活動事例紹介

○テーマ：事業計画の立案進捗管理

○企業名：株式会社野島エンジニアリング ○担当支援者：門平アドバイザー



減収下の厳しい状況であるが営業利益3%以上達成を目標として、全員参加の経営を念頭に、売上高・利益・経費・販売先別売上など経営目標値の見える化を図り、目標値と実績値の差異を常に確認しながら全員参加の小集団活動で取り組みました。

顧客のニーズを的確に捉え開発機種を12種から5種に絞り込むとともに、顧客との細やかな納期調整により繁忙期を閑散期へ平準化し、冬場を生産の改善活動にあてることで、従前に比べ売上高が1.2倍、利益率を2倍とすることができました。

目標値をグラフで見える化

全従業員が課題を共有し小集団活動で腹を割って話し合うことで意思の疎通が図られ、期待以上の成果を得ることができました。

◆ものづくり産業支援センター「情報グループ」活動の紹介

情報グループでは、「人物情報が行き交う場づくり」を行動の柱として、センターが行う支援活動の紹介、市内中小企業を取り巻く環境の動向、市内の元気のある中小企業の活動のエキス、企業活動に有益な講演会やセミナーの開催案内など、さまざまな情報を発信します。



企業祭会場風景(昨年度)

情報グループの主な施策

	施策	内容	頻度
1	ものづくり広報の発行	センターと中小企業との間での情報の共有	6回/年発行(隔月)
2	交流の場づくり	中小企業間での交流、市民、行政を交えての相互交流	1回/年のイベント
3	情報の発信	センターの支援活動状況の整備、広報すずか・テレビなどのメディア活用、企業活動や企業間交流のPR、講演会やセミナーの開催案内、補助金情報の提供、その他企画など	イベントごと